【テーマ2：ダブル・ループ学習で「問題の根っこ」を問う力をもつ学校組織の生成：チーム学校力向上モデルの開発】

【国立大学法人岡山大学】

- 校内研修・授業研究（以下、研修・研究）がチームの作用で教職員のダブル・ループ学習を促し、多角的な検討が学校の「問題の根っこ」を発見・生成するプロセスを調査研究した。
- 岡山県の岡山市、倉敷市、浅口市の教育委員会と連携し、主に小中学校9校、教職員約165人の協力を得て行った。他府県の実践も調査した。
- 全国公立小中学校事務職員研究会岡山支部の協力を得た（約90人）。

モデル開発概要

現場における課題

- **シングル・ループ学習としての研修・研究の限界**

顕在化する問題に対処・適用するための知識・技能の現場実践にとどまり、教職員が即効性を志向する狭義の学習者（伝達者）の性格をこえにくい。

- **ダブル・ループ学習への転回**

専門職としての教職員の学びは、自己の価値観の更新をともない、問題の前提・本質を問う視点をもつ存在としての成長を促す必要がある。

モデルの概要：チームの視角

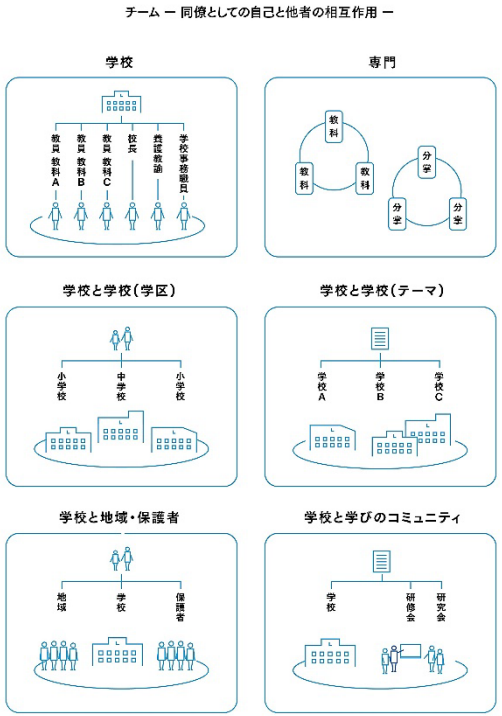
- **チームの再価値化**

・校内チーム（多教科、多職種など）

・校外にも広がるチーム（学校間、テーマ、地域、研究コミュニティなど）

- 「自己」と「他者」の相互作用

「他者」に着目した同僚関係としてチームを意味づけ、自己と他者の相互作用としての学びあいの深まり（意識と行動のセットの変容）を促す。



高度化に資する取組とモデルの開発

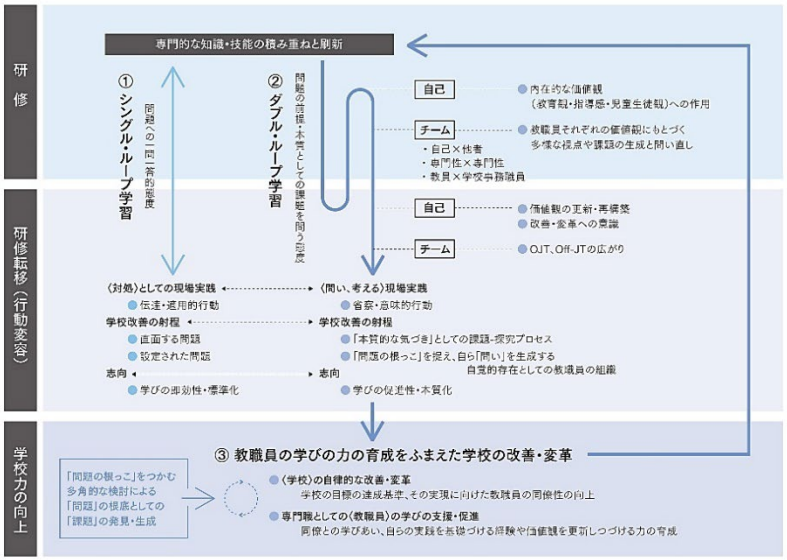
- **自己の学びと協働の学びの集成としてのチーム学校力の向上**

→校内のチームとして教員・学校事務職員、教科教諭・養護教諭、多教科間教諭などの合同研修、学校間のチームとして小中、教科、テーマなどの合同研修、チームとしての学校と地域の合同研修などを実施した。参観、記録、聞き取り、アンケート調査などを行った。学校の状況や特色が異なるが、内容を総合し、下記の基盤的なモデルを開発した。

- **多角的な検討が実現する「問題の根っこ」の発見・生成**

→チームという多角的な見方や多様な価値観が交差する探究的プロセスが、学校の改善・変革に結節する。

チーム学校力向上モデル：ダブル・ループ学習で「問題の根っこ」を問う



モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- **専門職としての教職員の研修・研究は、学びのプロセスの質において意味づけられる。**
- **ダブル・ループ学習は自己と他者が相互作用する関係において促進される。**
- **チームとしての学校と地域という捉え方において、コミュニティ・スクールの仕組み（学校運営協議会や熟議など）もダブル・ループ学習の契機となる。**
- **研修で内容に有用度を感じる教職員において、研修転移として現場で活用するが、アンラーニングが起きにくい傾向が示された。一見、現場で活用しているから研修効果を認めるだけでなく、本人が陥っているかもしれない「凝り固まり」をほぐすため、管理職や同僚との対話を通じた省察や学びあいの継続が重要になる。**
- **本事業で示した基盤モデルから、学校の状況や特色に応じた実践モデルの構築・展開が可能である。**